



病診連携通信

第8号

公益財団法人
湯浅報恩会
寿泉堂総合病院
平成27年10月

人工股関節置換術について

人工股関節置換術は、股関節を人工の関節に置き換える手術です。変形性股関節症、関節リウマチや大腿骨頭壊死症などが原因で股関節に変形を来し、日常生活が障害され、薬物療法や運動療法などの保存療法で症状が改善されない場合に行います。変形が強くても日常生活が障害されていなければ手術の適応はありません。変形がひどく病状が進んだ進行期や末期の患者さんが適応となります。

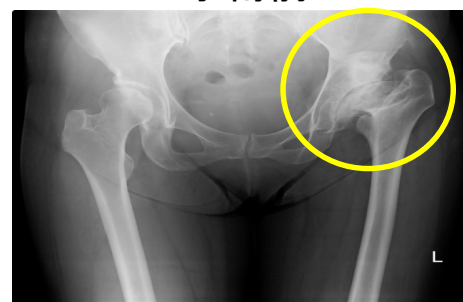
手術後は、痛みがほとんど消失し、跛行も改善し不自由なく歩けるようになります。一般に、人工股関節の耐用年数は約20年と言われています。そのため、以前は60歳以上の患者さんに施行されていましたが、近年は早く股関節の障害を取り除き、有意義な人生を送るために60歳未満で手術を受ける患者さんが増えてきています。手術時間は1時間半～2時間、入院期間は2～3週間程度です。変形が強くなく、股関節の可動域制限が少ない患者さんの場合は、前側方から筋間を分けて侵入し、筋肉や腱を切離することなく手術を行っています。この術式は、手術の侵襲が少なく、術後の回復が早く10日くらいで退院しています。

人工股関節置換術のリスクとしては、1～2%の発生率で脱臼があります。危険な動作をしなければ脱臼することはありません。人工関節のゆるみの発生率は10年で5%程度、人工股関節周囲感染の発生率は1%未満と言われています。

昨年の当院の人工股関節置換術は年間70例でしたが、年々増加しています。お気軽にご相談・ご紹介くださいますようお願いいたします。（整形外科：荒 文博）



手術前



手術後



寿泉堂総合病院では地域医療支援病院として病診連携を推進しています。

患者さんのご紹介や外来診療に関するお問い合わせは

寿泉堂総合病院 地域連携室 ☎024-927-0760（直通）または

☎024-932-6363（代表）

をお願い致します。